

第2部 グループディスカッション
「能登半島地震を踏まえ、技術士による防災支援の方向性を考える」

グループに分かれ、テーマを決めて話し合ってください。グループディスカッションはタイムスケジュールを目安とし、進めていただくようお願いいたします。

1. タイムスケジュール

		時間目安	
1	自己紹介 (名前、地域、専門等、1分/人)	5~10分	14:35
2	<テーマの検討> テーマ例を3つ挙げている。この中からひとつまたは複数選択可、または別のテーマを設定することも可。 (テーマ例) テーマ① 能登半島地震を各地域視点でどう受け止めるか テーマ② 能登半島地震を踏まえ各地域はどう取り組むのか テーマ③ 技術士による防災支援について考える	15分	14:45
3	<現状の整理> 出来ている事、出来ていない事の整理、課題など →各自、付箋に書く	10分	15:00
	グルーピング、意見集約	10分	15:10
4	技術士に求められている事、役割、可能な支援など →各自、付箋に書く	10分	15:20
	グルーピング、意見集約	10分	15:30
5	今後の方向性 ・自分がどう関わるか ・どのような仕組みが必要か ・来年の全国大会(熊本)同イベントに向けて	20分	15:40
6	<投票タイム> ・会議体の名前 ・各グループの意見を見て回り、一人3つ投票 (まるシールを3枚渡します)	20分	16:00

スペシャルタイム：懇親会にて発表、感想、意見交換を行います。

2. 趣旨

防災・減災に取り組む時、心に灯している言葉があります。

「東日本大震災の実体験に基づく災害初動期指揮心得」（国土交通省 東北地方整備局）の表紙をめくると、目に飛び込んでくる

備えていたことしか、役には立たなかった。

備えていただけでは、十分ではなかった。

各地域で大規模自然災害が多発するようになり、復興のプロセスにも変化が起きています。

防災・減災活動において講演等含めた情報収集も必要ですが、インプットだけでは不十分であり、アウトプット＝行動するための下地作りも重要と考えました。

本日この集まりにおいて、議論、行動、評価を継続的に行う仕組みを作り、技術士ができること、すべきことを共有していくことを目指します。

3. グループディスカッションの基本ルール

- 話したことはふせんに残す。
- 他の方の意見を否定しない、遮らない
だからと言って、一人だけ長く話をしない
- 脱線した場合はファシリテーターがPA適用します

PAとは？

パーキングエリアのことです。

議題の本筋から外れた意見が出てきた時、ファシリテーターの判断で、PA用紙に預かり、議論を元に戻します。

最後にPAの意見をどうするかグループで決めます。

4. 本日のミッション

その1 この活動が継続するよう、会議体の名前を決める。

その2 より多くの技術士が取り組めること、仕組みをまとめる、

その3 各グループのまとめを見て、“いいね👍”と思った意見にシールを貼る。

（一人3枚）